

## 小学校新聞づくり

# つくる喜び・伝える楽しさ はがき新聞

北海道河東郡音更町立下土幌小学校 池田 圭子

### 1. はじめに

文章を書くことを苦手だな、と感じている子は、「作文」「新聞」など文を書くことに抵抗感を感じている。文章を利用して自分を表現する方法は、作文以外にもたくさんあることを子どもたちに知らせたいと日頃から考えている。そこで、楽しくそして誰にでも取り組みやすい『はがき新聞』を利用して文章力、表現力のアップを目指した。

子どもたちの文章力、表現力、意欲の変化からみられる『新聞づくり（はがき新聞）』の効果について考えたい。

### 2. 取組の概要

#### (1) 合い言葉は『この感動を忘れずに』

学校生活の中で、心が動かされることはたくさんある。例えば、「友だちに助けられてもらったうれしかった。感謝の気持ちを伝えたい。」「行事の中で体験したことや心に残っている。」など。そんな出来事や自分の気持ちを『はがき新聞』で短い文章で表す。『はがき新聞』は、ちよっと聞いて欲しいこと、伝えたいことを自由に書くことができる。はがきなので常に誰に伝えるのが相手意識がはつきりしているので、書き手は迷うことなく書くことができる。また絵を描いたり、タイトルや見出しもすべて自分で考えて作るのでオリジナル性が高く自分だけのものを作成することができる。昨年度の5年生（現6年生）では、相手意識、書く目的をはつきりさせるために社会科学見学やお世話になった人などにお礼の『はがき新聞』から取り組みをはじめた。目的意識をはつきりすることで文章も抵抗なくかけるようになった。更に次のような効果がみられた。①身近な出来事から、書く話

題を見つけることができるようになる。②5W1Hを意識するようになる。③伝えたいことを端的にまとめ、簡潔な文章が書けるようになる。④伝えたいことを精選して書けるようになる。

#### (2) 『はがき新聞』を通じて意欲的に

「読んでもらいたい・知って欲しい・知らせたい」という気持ちが高まり意欲的に。①読んでもらいたいという気持ちから、きれいな字を書くようになる。②返事をもらうことで、意欲的になる。③はがきスタイルなので、気持ちの交流が深まる。④日常の出来事に関心が深まり、意見を持つようになる。⑤より詳しく知らせるための調べものや取材、情報整理ができるようになる。他の教科への意欲付けにもなった。

#### (3) 「はがき新聞」を利用した文化交流

「はがき新聞」で異文化交流。2年前、前任校の糠内小でブルガリア滞在の野手美和子先生とはがき新聞で交流。子ども達にとつて異文化を知ることとは、自分たちの文化を再発見することにもつながった。今まで普通だと感じていた日本の良さや豊かさを感じ取ることができた。

### 3. 成果と課題

「はがき新聞」を通じて文章を書く力や、文を構成する力がついた。相手意識・目的意識がはつきりしていると文章も書きやすい。『書けた！』と『できる喜び』『つくる喜び』を実感できて子どもたちが自信をもって取り組むことができた。今後は、「はがき新聞」を通じて、他地域や他校と交流し『伝える楽しさ』にもっと広がっていきたいと考えている。